

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772500761		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホーム自由時館		
所在地	大阪府池田市鉢塚2-5-29		
自己評価作成日	平成23年3月22日	評価結果市町村受理日	平成23年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772500761&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772500761&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年5月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由時館では、出来るだけホームに引きこもらずに外出頻度を増やすように心掛けています。イベントに参加したり、お弁当を作って出かけたり、毎年恒例となっている利用者様、ご家族、職員での一泊二日の温泉旅行等があります。宴会では利用者様、スタッフが合同で宴会芸を披露する事が恒例で、とても楽しみにされています。高齢になるにつれ外出の機会が少なくなっていますが、自由時館では出来るだけ外出し、外の空気を吸ったり、季節感を感じたり、人とのふれあいを大切にしていこうと努力しています。地域のイベントにも参加させていただき、地域のお年寄りとの交流も大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、「みんなの為にあなたがいる あなたの為にみんながいる」と理念に謳い、利用者と職員、家族、地域とが共に支え合いながら暮らすことを大切にされています。利用者の重度化が進む中でも個々の趣味や楽しみごと、できることが継続できるように職員は話し合いを重ね、介護計画を立て目標や情報を共有し連携良く取り組んでいます。日々ホームでは家庭的な雰囲気の中で利用者は思い思いに表情豊かに過ごし、できる限り外出もできるように毎日買い物に出かけたり地域のふれあいサロンへの参加、習い事等の個別外出等を支援しています。また、運営推進会議を通じて参加者から多くの意見をもらい、地域の行事への参加や地域の方に気軽に訪問してもらえるよう日時を決めて喫茶自由時館と称したホームでの交流の機会を作り始め、地域との繋がりが深まってきています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間の話し合いによりみんなの為にあなたがいる あなたの為にみんながいる というホーム独自の理念をつくりスタッフ間で共有している	職員間で話し合い作られたホーム独自の理念は、支え合いを大切に暮らしていくという思いを込められて作られています。リビングに掲示し常に意識し、日々共に暮らす中で職員は利用者に励ましてもらう場面もあったり、入居者の笑顔を見るために支援し、理念を実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、毎月1度会館で行われているふれあいサロンにも参加させていただいている。お花見の時には、地域の老人会から声をかけていただき合同で行った	毎日買い物などに出かけ、近隣の方と挨拶を交わしたり、野菜を頂くなど日常的に交流しています。併設する障がい者施設と一緒に花見に行ったり、隣の畑に芋掘りに来た幼稚園児と交流を持つこともあります。地域の方に気軽に訪問してもらえるよう、日時を決めて喫茶自由時館と称しホームで交流の機会を作り、定期的に行っていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成研修受講済のスタッフもおり今後地域に向けての勉強会も考えていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を通して意見交換をしたり、地域との関わりのかけはしをしていただいている	運営推進会議は、家族代表や町内会会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催されています。ホームの現状や行事等の報告を行い、地域の行事の情報をもらったり、参加者との意見交換を行っています。地域の方々に立ち寄ってもらえるような取り組みについてなど話し合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	アドバイスをいただいたり、相談等も行い質の向上に取り組んでいる	運営に関する相談や質問等があれば、直接市役所に出向いたり、電話で聞いています。市から介護相談員を受け入れ、都度に介護相談員から市に報告し、年に1度三者で集まり話し合いを持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前年度は階段下をご家族の要望もあり施錠していたが、現在は危険性も少なくなってきたため施錠は中止した	法人の研修などで身体拘束について職員に周知を図っています。拘束に繋がるような具体的な事例は会議で話し合っています。玄関等には施錠せず、階段には安全のため取り外しが可能な鈴の付いた柵を置くなどの工夫をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員にも社内研修を行っている		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員にも社内研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をとっていただき契約を行っている不明な点などは、理解、納得がいくまで説明を行うようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族とコミュニケーションをはかり意見、不満などを言っていたく発言がしにくい場合もある為に、意見箱の設置を行っている 月に一度、派遣相談員の訪問もある	家族が来訪された時には、話しやすいように配慮し意見を聞いています。家族も高齢化してきており、意見を言いにくい状況ですが、意見箱を設置したり電話で連絡するようになっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や、提案を業務に反映させるように取り組んでいる	ホームの会議はほとんどの職員が参加し、活発に意見交換が行われています。会議には社長の出席もあり、業務改善や運営に関する職員の意見が反映できる体制となっています。また、社長の誕生日に個々の職員と利用者から社長に意見やメッセージを記入したノートを作り手渡す予定です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いが刺激し合い向上心を持って働けるような環境になるように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定の職員だけではなく、色々なスタッフに研修を受ける機会を出来るだけつくるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に一度池田市のグループホームの管理者、計画作成担当者、リーダーが集まり意見交換や困難事例等の検討会などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと時間をつくり本人が安心できるように信頼関係が築けるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に沿えるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、スタッフが話し合いながら本人にとって何が一番必要なのかを話し合う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とスタッフと言う関係ではあるが、家族同様お互いが支え合える関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフも家族同様のご本人を支えていく関係を築きながら、ご家族にも協力していただく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から続けておられる習い事や友人とのお付き合いも出来る限り支援している	以前から顔馴染みの近隣の方と外に出た時に声をかけてもらったり、行きつけの美容院を利用できるように支援しています。趣味の習い事の継続や落語やコンサートを観に行くなど、個々の趣味が継続できるように介護計画にも挙げて支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行もあり、利用者様同士が関わり合いを持てる機会が少ない		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族と連絡をとったり、ご本人に面会に行ったりと関係性を続けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向に沿えるように努力しているが、出来ていない事もある	これまでの生活習慣や好みなどを日常のコミュニケーションから聞きとったり、表情や行動から思いを汲み取り、センター方式の一部を取り入れたアセスメントに記入しています。ミーティングでは得た情報を基に個々の利用者の思いを検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から出来るだけ情報収集を行いスタッフ間でも共有できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせて一日を過ごしていただけるように努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、スタッフ間での話し合いのもと目標を持ち ケア出来るように努めている	アセスメントを基に担当者会議を開き、介護計画を作成しています。会議にあたっては、往診時に医師の意見を聞いたり家族に意向を確認してから行っています。毎月モニタリングを行い、介護計画が現状に即しているかを検討し、3ヶ月毎に再アセスメントを行い介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をいかしながら情報を共有し業務にあたり工夫やご本人の出来た事出来なかった事が記録されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等以外には事業所が送迎に関わらない外出に関しては、系列の介護タクシーに依頼する事もでき安全、安心に外出が出来るように支援している		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カルチャースクールのカリキュラムを配布し希望があれば意向に沿うように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療の訪問診療があるが、希望がある場合には、以前からかかれておられる医師に診ていただく事も出来るようにしえんしている	入居時に以前からのかかりつけ医の継続も可能であることも説明し、かかりつけ医を決めています。協力医からは月に2回往診に来てもらい、夜間も医師又は看護師と連絡できる体制が整えられています。個々の状況に合わせて歯科の往診も来てもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応してくれる在宅医療の医師や看護師と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ訪問し医師や看護師、ご家族との話し合いを行い 情報交換を行うように努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも話し合いの場をもっている 状態の変化にあったケアを行うために状態に応じご家族と連絡を取り合っている	入居時に常時医療が必要となった場合にはホームでの対応ができないことを説明しています。重度化した場合はかかりつけ医の判断のもと、その都度家族と話し合いを重ねています。ホームで支援できなくなった場合には、病院や次の施設を家族と一緒に探すなどの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等でも緊急時の手順や事故発生時の対応について徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ホーム独自で避難訓練を行っている一回は総合訓練で後の一回は部分訓練を行っている	消防署から防災訓練に関してのCD-Rを借り、それを基に昼夜を想定しホーム独自で避難訓練を行っています。運営推進会議等で地域の方々にも説明し、見学に来てもらうことから協力体制に繋げて行きたいと考えています。スプリンクラーの設置や備蓄も準備し災害の対策をとっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と言う事を意識している	入職時には接遇研修を行っています。家庭的な雰囲気の中で馴れ合いにならないように、常に人生の先輩であることを意識して対応するように心がけています。不適切な対応がみられた時には、その都度管理者が注意をしたり、スタッフ同士でも注意し合える関係が築かれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるように声かけには工夫をするよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているがスタッフの人数の問題もあり 入浴時間等は限られた時間になる事がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望で毛染めやマニキュアなど出来るように支援したり 服装なども相談に来られたら対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事作り、片付けをその人の能力に合わせて一緒に行ってもらう	職員が献立を考え、利用者と一緒に買い物に行き、皮むきや食事作りのできることに携わってもらっています。利用者の希望を聞いたり、近隣からの野菜の頂き物があった時には献立を変更しています。職員も一緒に食卓に着き同じものを食べながら楽しい食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量がわかるように記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う ご自分で出来ない利用者様はスタッフが介助している		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンがわかるように排泄チェック表をつけトイレ誘導などの時間を工夫している	排泄チェック表を利用して、個々の排泄パターンを把握しています。ミーティングやアセスメントで自立に向けて検討し、個々の習慣やパターンに合わせて排泄の援助を行い、失敗がなくなったりおむつから紙パンツへ変更した事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給を心がけながら便秘に注意している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの人数の都合で時間帯はある程度限られている	毎日入浴の準備を行い、10時から17時30分の間の希望の時間に合わせて入浴してもらっています。拒否される方には日を変えたり対応する職員を変える等の工夫し入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調に合わせてお昼寝等をしていただいで過ごす事もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧表がいつでも確認出来るようになっており 薬の変更や追加等があった場合には申し送りの徹底を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった趣味や好みを理解して楽しみながら過ごせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習い事や、希望時お買い物や外食、喫茶店へ出かけたりと外出の支援に努めている	利用者の重度化に伴い、外出の機会は少なくなってきましたが、希望に応じて個別に買い物に行ったり、同法人のグループホームにお茶を飲みに行く等、外出の機会を作っています。重度化しても年に1度利用者全員で出かける一泊旅行が恒例となっています。	



グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からのお小遣いをご自分で管理されお買い物の時にご自分でお支払いされる方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には、電話をかけたり、手紙を出したりする事の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しないように大幅な配置変更はしない温度管理にも配慮している	共有空間は広くはありませんが、寛ぎながらテレビを観ることができるソファや、職員と一緒に調理がしやすいように食卓が配置されるなど、思い思いに過ごすことができます。季節の花を飾り、天窓から差し込む光が強くなり過ぎないように布を掛け、温かみのある空間作りをしています。加湿器や温室時計を置き、過ごしやすい環境に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースの問題もあり居室以外では独りになれるスペースがないが、そふあーの座る位置などお気に入りの場所がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や好みの物をお部屋に置いて生活してもらうように配慮している	居室には使い慣れた物や好みの物を持って来てもらっています。椅子や棚、タンスなどを持ち込み、ぬいぐるみや写真、自身の写真などを飾っています。利用者が調整できない時には室温調整にも注意をしています。また、畳に布団を敷き休まれている方もおり、個々に合った居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手伝いすぎないようにスタッフ同士声をかけ合いながら 本人の力を引き出すように努力している		